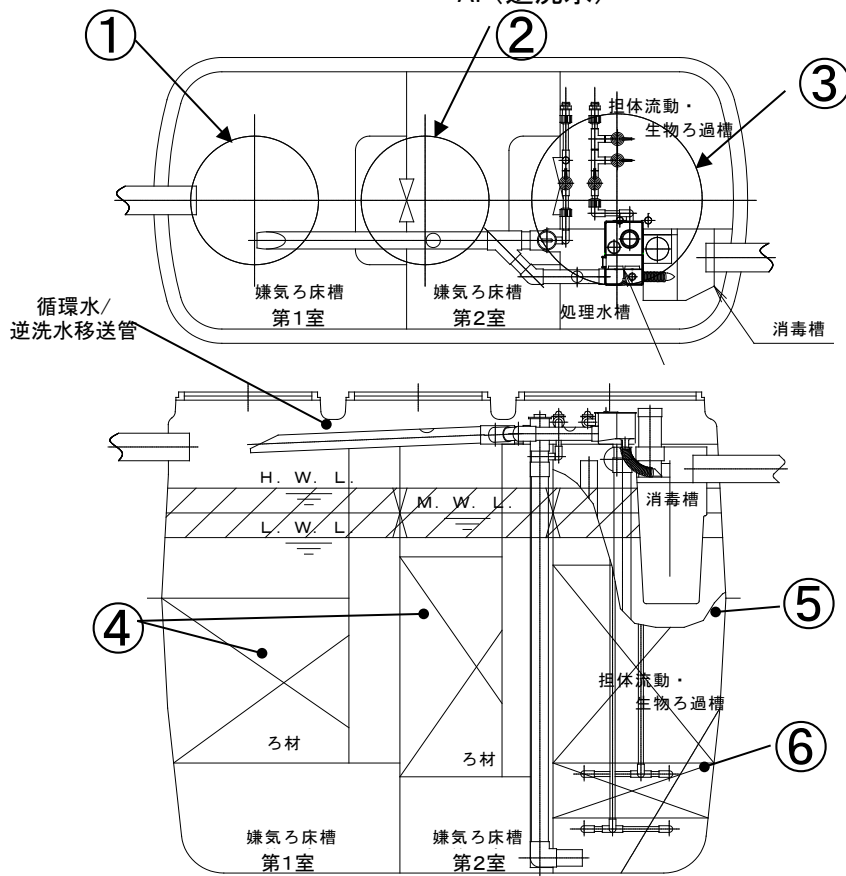
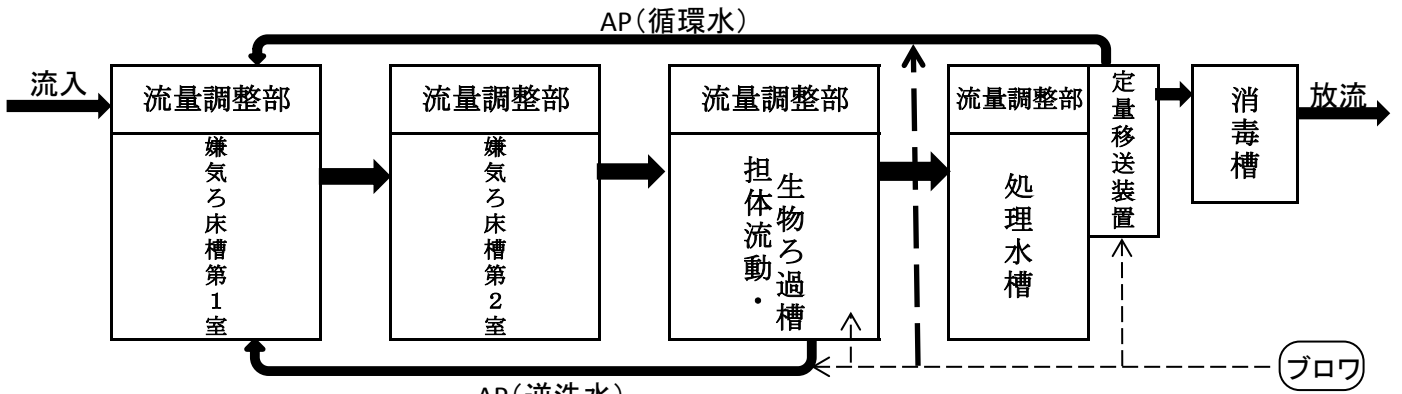


<b>FCP 大栄産業(株)</b> OEM: <b>KAM-NC 萱場工業(株)</b> 共同開発: なし 処理方式: <b>流量調整型嫌気ろ床担体流動・生物ろ過循環方式</b> 5・6・7・8・10人槽	<b>BOD除去型</b>		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	—		
	性能評定または性能評価値				
BOD	SS	T-N			
20mg/L以下	15mg/L以下	—			



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体流動・生物ろ過槽
- ④嫌気ろ床槽ろ材
- ⑤流動担体
- ⑥ろ過担体

有効容量 (m <sup>3</sup> )		5人槽	6人槽	7人槽	8人槽	10人槽	
槽名	嫌気ろ床槽第1室(M. W. L)	0.869	1.055	1.237	1.402	1.758	
	嫌気ろ床槽第2室(M. W. L)	0.592	0.701	0.818	0.937	1.191	
	担体流動・生物ろ過槽(M. W. L)	0.389		0.427	0.471	0.602	
	処理水槽(M. W. L)	0.191		0.267	0.298	0.390	
	〈流量調整部〉		(0.293)	(0.366)	(0.380)	(0.449)	(0.542)
	消毒槽				0.022		
合計		2.063	2.358	2.771	3.130	3.963	

※ 合計に流量調整部は含まれてない

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	第1室	400	350
	第2室	350	

流量調整装置	循環装置	循環バルブ目盛(%)	汚泥移送用バルブ目盛	散気バルブ目盛
有	有	30~50	70~90%開	60%開

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5・6・7	60	20	5	2:00 4:00	2	1日
8・10	80	20				

[人槽に対する循環水量・放流水量・逆洗移送水量の設定範囲]

人槽	5	6	7	8	10
循環水量(ℓ/分)	1.4~2.1	1.7~2.8	1.9~2.9	2.2~3.3	2.8~4.2
放流水量(ℓ/分)	0~1.7	0~2.1	0~2.4	0~2.8	0~3.5
逆洗移送水量(ℓ/分)L.W.L~H.W.L	20~57				

特 徴

**流量調整部** 流量調整部が各槽上部についており、水位が変動する仕組みになっている。流量調整は定量移送装置によって行われる。

**嫌気ろ床槽** 嫌気ろ床槽第1室と第2室は下向流であり、どちらもφ150mmの骨格様球状ろ材が充填されている。

**担体流動生物ろ過槽** 2種類の担体が充填されており、槽内は全体的にばっ気し汚水は下向きに流れる。担体流動部は円柱状スポンジ担体が流動しBOD除去を進行させる。ろ過部には中空円筒状担体が静置されており、SSが補足される。閉塞を防止するためにタイマー制御で逆洗管から送気され、ろ過部の担体が攪拌混合される。逆洗することで担体に付着した汚泥が剥離して槽底部より揚水され、エアリフトポンプを経由して嫌気ろ床槽第1室へ移送される仕組みになっている。

**処理水槽** 処理水槽底部付近の移流口より担体流動・生物ろ過槽流出水が移流し、一時的に貯留された後、槽内に設置されたU字型のエアリフトポンプの取水口から定量移送装置へと移送される。そこから放流と循環に分配され、放流水は消毒槽へ、循環水は嫌気ろ床槽第1室へ移送される。放流水量と循環水量は装置内の循環せき及び放流せきにて調整される。

**ブロウ** ブロウ本体は1台で吐出口(散気と逆洗)が2系統あり、散気と逆洗はタイマーで制御されている。自動逆洗時刻になると散気吹出口から逆洗吹出口に切り替わる。

作業時のポイント

**保守点検**

- ①ブロウのタイマー設定(現在時刻、開始時刻、終了時刻)を必ず確認してください。
- ②循環・放流用バルブおよび定量移送装置を調整し循環と放流の水量を実測して調整してください。(上表参照)
- ③担体流動槽のばっ気状態、気泡の均一な上昇、担体の流動状況を確認してください。  
手動逆洗を行い逆洗時の気泡の均一な上昇の確認を行ってください。  
※気泡が均一でない場合は、汚泥移送用バルブの開閉による調整または水洗浄してください。
- ④逆洗移送水量の確認(上表参照)を行ってください。全人槽20ℓ/分を基本とし使用状況に合わせて調整してください。
- ⑤担体押さえ面をブラシで洗浄してください。

**清掃**

- ①嫌気ろ床槽第1室・2室とも汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。
- ②生物ろ過槽の清掃が必要な場合は、手動逆洗を行いながら処理水槽から汚泥を引き抜いてください。